

ヤマトグループ賛助会員向けニュース 発行部数12万部

ヤマト福祉財団

Yamato Welfare
Foundation

No.7

2005 Summer

NEWS



緊急特集

小倉昌男 前理事長 急逝

シリーズ ②

ヤマト福祉財団賞受賞者は今...

●ミーカフェ
スワンカフェ、スワンベーカリー 銀座店で5/16～5/28に開催。



株式会社ストローク
代表取締役

金子 鮎子さん

かねこ・あゆこ

清掃という仕事を通して、
多くの精神障害者が社会参加。
働いて成長する喜びを実感しています。

「心を病む人々のほとんどは若いときに発病し、働けるようになっても周囲の無理解などで働く機会が少ない。つまり、社会人として成長する機会、自己実現の場が奪われている。ならば、と思って始めたのがこの事業です」と語る金子鮎子さん（71歳）。前号で紹介した伊藤静美さんとともに、第一回ヤマト福祉財団賞を受賞したその金子さんを、東京・高田馬場のご自身が経営する清掃会社、株式会社ストロークに訪問し、いろいろお話をお話をうかがいました。

五年前、第一回ヤマト福祉財団賞候補者に金子さんを推薦したのは、館暁夫さん（西南学院大学教授）です。金子さんの話をうかがう前に、館さんのその金子鮎子推薦の弁の「コマ」を次に紹介します。

金子さんはNHKに勤められておられました。NHK時代には、初の女性カメラマンとして活躍されました。このことから、金子さんはチャレンジ精神に富んだ方であることが分かります。一方、人間愛に溢れた金子さんは、在職中、精神障害者のための『日曜サロン』に参加され、総合失調症や躁鬱病などの心の病を持つ方々と出会い、「就職も難しい。友人もなく殻に閉じこもりがち。仕事があれば働くことができるのに」と思われたそうです。

定年退職した翌一九八九年に、金子さんは知り合いの業者のもとで自ら清掃の仕事を経験、

株式会社ストロークの横顔

◎ 選考方法

心の病の経験者の社会復帰を助けながら、相談にのり、就労への援助をしながら、熟年世代、理解ある一般市民の方々と仕事を通して、ふれあい、助け合い、ともに健康に働いていくことを目的とする。

◎ 社名の由来

「ストローク(Stroke)」には、本来「撫でる」「さする」などの意味があり、スキンスリップや温かい心は障害者にも健康な人にも必要。ストロークを他に求めるだけでなく、これを積極的に発信したいと願って命名。

◎ 会社の設立

1989年3月

◎ 代表取締役

金子鮎子

◎ 所在地

東京都新宿区高田馬場4-23-13

◎ 電話

03-3336219033

◎ 事業の内容

①清掃に関する教育訓練及び清掃事業。②ダイレクトメール等の発送代行業務。③パソコン活用のデータ処理及び印刷業務。④障害者の社会参加に関する啓発的イベント等の企画立案・実施。⑤心の健康に関する学習会・イベント等の企画・立案・実施。⑥人材育成のための教育事業ならびにカウンセリング。⑦その他。

◎ 従業員の数

社員4名 従事者30名（H17.3.10現在）

「出来る」と確信した上で、精神障害者の働く場としてビル清掃を主な業務とする株式会社ストロークを設立されました。

清掃を選んだのは、①設備などに余計なお金をかけなくてよい。②特殊な技能・技術がいらず、③障害があってもお互いに助け合いながら出来る仕事である。そして、当時、仕事の需要があった、ということになります。また、作業所や福祉施設ではなく、一民間事業所としての道を選んだのは、働く精神障害者に、自立の資としてより多い賃金を保証したかったこと、民間企業でもアイデアと自助努力によっては、精神障害者の雇用が可能であることを示したいと思われたからでした。

金子さんは、この十七年余、精神障害者の人々と共に働きながら、多くの人を職業人として育成し、社会復帰を支えてこられました。その道程が険しいものであったであろうことは、わが国の精神障害者の地位や昨今の経済状況を考えれば容易に想像できます。ストロークの実践がこれからの精神障害者雇用のよき手本となるであろうことを確信しています。



金子さんは昨年冬、事務所で脳梗塞におそわれました。すぐに自分で救急車を呼んで病院へ、そして入院。的確な自己判断と応急行動により、幸いにも病いを軽度なものに抑えることができました。

初の女性カメラマンとして活躍

——NHK時代のことをお聞かせください。

金子 昭和三十年（一九五五年）三月に早稲田大学を卒業し、同年四月にNHK（日本放送協会）に入りました。当初は人事部門に配属されました。わたしとしては番組屋を望んだが、当時、テレビが始まったばかりで、近い将来、テレビ全盛時代がやってくるというときでした。NHKもそういう情勢に対応して、各部署からテレビのほうへ人事異動がある時期で、わたしも希望してテレビ部門へ移してもらいました。

——やがて自ら望んでカメラマンの仕事をするようになります。そのわけは？

金子 テレビ局に移ってしばらくは、海外から送られてくるフィルムにキャプション（見出し、説明文）をつけたり、翻訳してニュースに入れる仕事などをしていました。だけど、向こうからきたフィルムじゃ面白くない。自分で撮りたい、と思うようになった。それでカメラマンにしてほしいとかけ合いました。当時、女性のカメラマンはまだいなかった。もともとカメラマンという仕事は男の世界の仕事で、女の口にはムリだろう、といわれていた。とくに女性だと「泊まり」もできないだろうということもあって……。念願のカメラマンになれたのは、一九五八年に東京で開催されたスポーツのアジア大会がきっかけです。アジア各国から集まった女性の選手村には、報道関係者でも男性は入れない。選手同士の交流場面など、取材しようにも男はシャットアウト。そのときわたしが役に立ったのです。そして皇太子殿下と美智子さまのご婚約。報

道規制があつて未来のお后候補をやたらに追い回すことはできない。たまたまNHKに美智子さまの親戚の方がいて、わたしは美智子さまの友人ということでその人と一緒に美智子さまの実家に入り取材することができました。一九六四年の東京オリンピックの段階では、報道関係の中にも女性の活躍の場が増えました。当時、TBSにいた堂本暎子さん（現千葉県知事）と知り合ったのもその頃です。が、女性にとってカメラマンはまだヤミの仕事（笑い）で、わたしが正式にカメラマンになったのはご婚約内定の半年ほど経つてからのことです。

——精神障害者問題とかわるようになったのはいつごろですか。

金子 わたし、もともと変わり者でしてね。高校生の頃から精神的な病気というものの不思議さに関心を持っていました。戦後、みず書房、日本教文社などから、フロイトの『精神分析入門』など精神分析や精神医療関係の翻訳本が出版されるようになった。それらの本をむさぼり読んだ。と言っても、当時、翻訳本は高価だし買う金もないので、もっぱら図書館に通いました。それらの本を読みながら、自分の気持ちとか他人に対する思いとか、その動きなどについて考えるようになった。青年期ですからね。

『日曜サロン』の誕生

——心の問題に対する関心は社会人になつても続きましたか？

金子 一九六八年に報道関係の現場を離れる前後から、以前学んだ精神分析学や精神医療の問題についてあらためて勉強を始めました。



（株）ストロークを支える皆さん。左から小張和俊さん、金子鮎子社長、高橋ちふみさん、青柳恵宥さん

カウンセリングセンターというところでコースを選んで……。カウンセリングと精神医療の接点を求めるような勉強がしたいと思うようになりました。で、同じような考えをもつ知り合いの方に相談し、よし、一緒に何かやろうということになった。その頃、精神障害者は、病院を出てきても行くところがなく（共同作業所などはまだない時代）、家でブラブラしていた。おのずから家庭内でトラブルが起きる。そこでそれらの退院者やその家族らを集めて話し合う場所を設け、自分らも一緒に心の中の病いの問題を勉強しようということになった。場所は提供者がいて東京・日本橋に近いところ。そこにわたしの先輩のカウンセラーの先生、P.S.W（精神病院などで患者の社会復帰を援助したり家族の相談相手をする専門家）みたいな人たち、それに精神科医も参加して、最初は毎月一回、当事者、その家族らを中心にお互いに共通の問題として話し合いました。

『日曜サロン』ですね。

金子 今、自分がどんなことで困っているとか、こうしたい、こうしてほしい、といったことを家族を含めて当事者たちがみんなさらけ出してゆく。その中で共通する問題、課題が姿を現してくる。それを拾いあげてみんなで話し合う。また、そこで出てきた問題、話を聞いて自分の参考にする、ということもありました。最初は家族、当事者を一緒にやった。ところが家族が「この子はダメなんです」などとけなす。と、当事者はちびちびじゃって何も発言しなくなる。それじゃ仕様がなからって話し合いの部屋を分けました。この『日曜サロン』は現在も続いており、月2回、日曜日の午後開いています。

——NHK退職後、株式会社ストロークを立ち上げられたのも、『日曜サロン』などの活動を通じての自然の流れだったといえますね。

金子 『日曜サロン』の活動を通じて当事者やその家族らとの個別の関係ができていった。サロン開設当時は、精神障害者は一度入院すると短くても三年は退院できないといった状況だった。また、入院するときは病気をかなりこじらせていた人が多かった。注射されて気がついたら入院していた、というケースです。騙されて入



(株)ストロークに清掃業務を委託しているヤマト運輸新東京主管支店新宿エリア支社

院した、ということだから、一度退院するとあとは病院へ通わない。おのずから病状が悪化する。家族、親としてはなんとか病院に行ってほしい、クスリを服んでほしい。が、当事者はもともと病院へは騙されて連れていかれたという思いがあるものだから、がんとして行かない。そこでわたしなどはそれらの家族に頼まれて当事者の自宅を訪ね、当人といろいろ話し合う。やがて人間関係ができてくるとここの言うことを信用してくれるようになる。じゃ、もう一度病院へ行ってみようか、あるいは別の医者のところへ行くか、ということになる。そうなるとうちは、自分では話ができないものだから、ふだんでもどうか家にきてほしい、家にきて話し相手になってやってほしい、ということになり、わたしはそれを断るわけにもいかなかった。土日なり夜とかに本人とか家族に会いにゆく。そういうことをわたしは、仕事以外の時間に頼まれてやってきました。

個別的な当事者本人らとの語らいの中で、結局、本人も家族も、働きたい、働かせたい、ということになります。そこであるとき、NHKに入っている清掃会社に口利きし、アルバイトとして雇用して頂くんですが、それがほとんど長続きしない。一日か二日でダウンしてしまう。それまでの気ままな生活習慣から体がなまっているということもあります。夜型の生活になっけて時間的にも生活設計ができていない。働くための訓練をしていない。つまり働ける状態になっていない。一人、長続きした人がいた。その人は、母親が大病をしてたいへん苦勞をしていた。で、なんとか自分が働けるようになって親に安心をさせたい、と自立への意欲が人一倍よかったです。これに周りもいろいろ気をつけ、協力



(株)ストロークから派遣されてヤマト運輸新宿エリア支店で清掃の仕事をしている、障害者の皆さん

した。当初、労働時間を短い時間から始めた。一日二時間とか三時間とか…。一年半くらいかけて労働時間を正規の形にしていきました。やはり本人の働きたいというつよい意志と、これを家族を含めてバックアップする協力体制、それが不可欠ですね。とにかくちゃんと仕事に出る、働き先のルールを守る、遅刻する場合はちゃんと連絡をするなど、最低限のことはできないと社会の中で通用しません。

人は仕事によって成長する

——心に障害がありながら働く、それらの人々と一緒に仕事をする。そのことによる厳しさを百も承知の上で今の仕事を始められた動機は何ですか。

金子 わたし自身、NHKに就職しているんな仕事をさせて考えさせられることは、人間というものは仕事を通じて成長していくものだと思います。その仕事をしなければそのことについて勉強することもなかった。こういう人とも知り合いになることもなかった。仕事をすることによって自分は育ってきた。その点、精

神障害者の人たちはほとんどの場合、若いときに発病し、そのあとは病院に入院したり家の中に閉じこもったりの生活をしているケースが多い。したがって本来は、学校を出、社会に出て、そこでよいことも時に悪いこともいろいろなことを学び、育っていくのに、彼らにはその機会がない。友達もいない。社会的な学習をする機会もなくて大人になってしまった、という状態ではない。働こうと思ってもうまくいかない。けれども最初から仕事ができるわけではないが、一緒にやりながら経験を積んでいけば、十分、世の中を生きていける人が病者の中にもいる、と考えてこの仕事を始めました。折角、この世に生まれてきたのに、障害者だからといって社会的経験を積まず、家の中などで縮こまって過ごすのは勿体ないではないか、とわたしは思います。

S

現在、二五八万四千人。このうち施設入所者三四万五千人、在宅者二二万九千人（『障害者白書』2004年版）。とくに最近、目立った傾向は、現に働いている人の中に発病する人が増えていることです。

(取材・文 高田三省)



小倉昌男 前理事長、逝去 「お別れの会」を八月八日、帝国ホテルで

ヤマト福祉財団の小倉昌男前理事長は六月三十日午前6時7分(日本時間)腎不全のためロスアンジェルス郊外の長女宅で逝去されました。享年80歳でした。ここに謹んでご報告を申しあげ、ご冥福をお祈り致します。

なお、日本での「お別れの会」は八月八日、午後0時30分より午後2時30分まで、東京・千代田区の帝国ホテル二階「孔雀の間」で、ヤマト運輸株式会社、財団法人ヤマト福祉財団、ヤマト運輸労働組合、の三者による実行委員会が主催して執り行われることになりました。



長年愛用されたワープロ

執務室とヤマト運輸社長時代から使用されていた木製の名札



ありし日のアルバム



財界賞特別賞の受賞祝賀会、東京會館。
(平成14年)



スワンカフェ&ベーカリー赤坂店のオープニングセレモニー。右から小泉純一郎首相、小倉昌男前理事長、ベーカリー米國駐日大使ご夫妻(当時)、曾野綾子日本財団前会長、笹川陽平現会長。(平成13年11月)



炭焼きを視察、八王子郊外。炭焼き名人の杉浦銀治さんと。(平成11年)



スワンカフェ銀座のオープニングセレモニー。有富慶ニヤマト運輸会長、タカキベーカリー高木社長と。(平成14年10月)



最後の講演、八重洲ブックセンター。(平成15年11月)



財団設立10周年の会、関係者、OBらと、熱海聚楽ホテル。(平成16年3月)



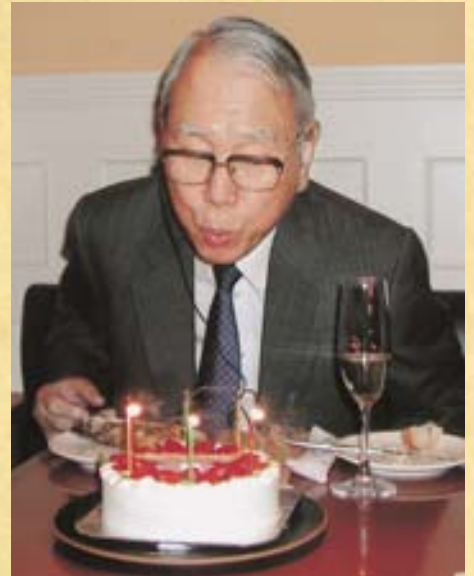
パンを試食。スワンベーカリー銀座店スタッフと。(平成10年)



スワンベーカリー銀座店、オープニングセレモニーのパンカット。タカキベーカリー高木社長、有富慶ニヤマト運輸会長と。(平成10年6月)



ハンセン病回復者の平沢保治さんを訪ねて。多磨全生園にある高松宮記念ハンセン病資料館。(平成16年3月)



スワンカフェのスタッフよりケーキを贈られて、79歳の誕生日。(平成15年12月)



阿波踊りに参加、市川団十郎さんと。(平成13年)



パン作りにチャレンジ、ここからスワンベーカリーが始まった。タカキベーカリー研修センター(広島)。右、タカキベーカリー高木社長。(平成9年4月)



最後の写真、成田空港で見送りの方々と。(平成17年4月11日)

新聞各紙の追悼記事①

壁破ったパイオニア

ヤマト運輸 障害者支援にも尽力
小倉元社長



小倉昌男氏—02年7月撮影

軌跡

宅配便といふ新しいビジネスを切り開いたパイオニア。行政の理不尽な規制

「宅配便」といふ新しいビジネスを切り開いたパイオニア。行政の理不尽な規制をかみつく闘士。障害者の自立を願う福祉事業家。小倉昌男氏は、厳しさと優しさをあわせもつ経営者だった。

— 面談照 —

66歳で父から会社を引き継いだ。最初から順風ではなかった。成功のヒントは牛井の吉野家だった。70年代、大胆にメニユーを絞り込んだその戦略を参考に、家庭から家庭へと荷物を運ぶ「宅急便」に事業を集中した。と著書にある。

事業の成功に立ちま

ともしない語り口は、当時の経営者としては異色だった。

90年代に入り、ヤマト運輸の矛先は旧郵政省に向く。クレジットカード、行政書類……。営業に強占されていた分野の認可を求め、立ち回った。「正しいと思ったら一歩も引かない」というのが、周囲に共通する小倉評だ。昨春秋にも、日本郵政公社の小倉事業を

不正取引だとする差止め訴訟が、ヤマト運輸により起こされた。小倉さんの精神は、権害に引き継がれている。

一線を退いてから住居を捨てたのは、私財をなげうって福祉財団を設立、障害者の自立支援活動に尽くしたことだ。郵便局となった手作りパン店では、従業員とパンを焼く小倉さんの姿がよくみられたという。01年、郵

政改革で志を同じくする小泉首相が開店式典に駆けつけたこともある。

「障害者の賃金が低すぎるのは、福祉事業所が本業の商売を作っていないからだ。マーケットで売れるものが必要だ」。

小倉さんは、親しい財団理事に何度も語っていた。市場とともに歩む哲学が生きたのは、ビジネスの世界だけではなかった。

朝日新聞 7月1日

「官」と対決、規制に挑む

評伝

30日に亡くなった元ヤマト運輸会長の小倉昌男氏が築いた「宅急便」の一大物産展は、国民の生活を便利にするともに、郵便小包が独占してきた

小倉昌男元ヤマト運輸会長

した小倉氏は76年、当時は採算が合わないが常識だった小口配送の「宅急便」事業に活路を求めた。

翌日配達や配達地域別の一律料金など消費者に分かりやすい仕組みを導入。トラックの運転手にサービス精神を徹底させるなど革新的な取り組みを重ね、消費者の心をとらえた。

「サービスが先、利益は後」を信条に、常識にとらわれないアイデアを次々実行した。この先進性は、「規制」にしがみつく行政との衝突も生じた。83年に値下げを認可し

ない旧運輸省現国土交通省を批判する意見広告を掲載。85年には監督官庁を相手に行政訴訟も起こし、結局は判決を待たずに、要求していた配達路線の拡大を勝ち取った。クレジットカードの配達に待たされた旧郵政省（現郵務省）にも真つ向から論戦を挑んだ。小倉氏が郵政民営化を主張したのも「郵便より宅急便の方が良いサービスを提供できる」という自信があったからだ。

「官」に頼らず「民」の力を信じて、80年の人生を駆け抜けた小倉氏が晩年に選んだ仕事は、障害者の可能性を引き出すための自立支援事業だった。（高橋敏、本文記事1回）

読売新聞 7月1日

「規制緩和の闘士」

ヤマト運輸 訴訟通じ国動かす
小倉元会長

評伝

30日死去した小倉昌男元ヤマト運輸会長は「クロネコヤマトの宅急便」の生みの親で知られる。その一方で、国による規制を嫌い、国との戦いの歴史を積み重ねてきた「規制緩和の闘士」という顔

もあつた。（面談照）

小倉氏は父の創業した大和運輸（現ヤマト運輸）に入り、社長就任5年後の一九七六年に日本郵便小包一億千四百万個に対して十億六千二百万個と大きく逆転した。

だが、宅急便の拡大の過程では、路線免許の取得など、さまざまな参入の規制を掲げる旧運輸省や旧郵政省の壁が厚く、行開いてくれたという。政訴訟を通じてこれを突破。「役人なんていらねえ」と生田氏は激しい。行政を動かすには裁判が一番有効だった。

ヤマト運輸の生田氏は、日本郵政公社の時代には、経済同友会時代に規制緩和の旗振り役だった旧運輸省の研究會に同席して以来数十年の付き合い。生田氏が商船「井本」のようだった。（花井勝規）

東京新聞 7月1日

小倉・ヤマト
元社長死去

官と戦い 遺伝子残す

「ミスター規制緩和」



—97年3月

「官僚は虫歯。抜けばいい」

「ミスター規制緩和」と呼ばれたヤマト運輸元社長・小倉昌男さんが30日、80歳で死去した。郵便小袋の独占市場に参入し「宅急便」を創業。免許取得をめぐる運輸省（現国土交通省）と衝突した。その後クレジットカードの配運で郵政省（現総務省）と「信用が否か」で対立するなど、徹底して官の規制に反抗し「官僚は虫歯みたいなもの。抜いてしまったほうが国民はよほどよいサービスを受けられる」（94年1月）など、諷刺からは規制と戦い抜いた人生が浮かび上がる。

霞が関住人哀れ

「時代の流れというも

のを知らない霞が関の住人を哀れたいと思いますし、願望いと願う。閉鎖

社会だから、世の中が寛かかったという。ええいなだね。民間なんて金もうけのために何やらかわかんない、という前提でやってるんだけども、もうそういう時代じゃない。消費者は非常に賢くなっていて、運輸省よりも賢い。だから賢い人が目を光らせている。なにも賢くない運輸省が目光させなくていいわけです」（97年3月）

宅急便の開始は70年。当初は免許がいらない軽自動車で営業したが、80年にトラック輸送への路線免許を申請した。しかし運輸省は認めず、86年に行政訴訟を提起。この段階で郵便小袋は年間1億5000万個、宅急便は1億9000万個に達していたのに、免許は出

「無責任に国や産業の方向を決めるくらいなら、役所はなくした方がよい。規制緩和に賛成する業界団体は、役所が天下り先の確保のため作らせた役所の別動隊で、規制があるから仕事がある行政産業だ（96年7月）

「ミスター規制緩和」と呼ばれたヤマト運輸元社長・小倉昌男さんが30日、80歳で死去した。郵便小袋の独占市場に参入し「宅急便」を創業。免許取得をめぐる運輸省（現国土交通省）と衝突した。その後クレジットカードの配運で郵政省（現総務省）と「信用が否か」で対立するなど、徹底して官の規制に反抗し「官僚は虫歯みたいなもの。抜いてしまったほうが国民はよほどよいサービスを受けられる」（94年1月）など、諷刺からは規制と戦い抜いた人生が浮かび上がる。



インタビューに答える小倉氏（93年7月）

ら、役所はなくした方がよい。規制緩和に賛成する業界団体は、役所が天下り先の確保のため作らせた役所の別動隊で、規制があるから仕事がある行政産業だ（96年7月）

「ミスター規制緩和」と呼ばれたヤマト運輸元社長・小倉昌男さんが30日、80歳で死去した。郵便小袋の独占市場に参入し「宅急便」を創業。免許取得をめぐる運輸省（現国土交通省）と衝突した。その後クレジットカードの配運で郵政省（現総務省）と「信用が否か」で対立するなど、徹底して官の規制に反抗し「官僚は虫歯みたいなもの。抜いてしまったほうが国民はよほどよいサービスを受けられる」（94年1月）など、諷刺からは規制と戦い抜いた人生が浮かび上がる。

「無責任に国や産業の方向を決めるくらいなら、役所はなくした方がよい。規制緩和に賛成する業界団体は、役所が天下り先の確保のため作らせた役所の別動隊で、規制があるから仕事がある行政産業だ（96年7月）

毎日新聞 7月1日

余録

「てやんでえ、べらぼうめ。二本差しが怖くて田舎が食えるかよ。気のきいたワナギを飼ってみろ。4本も5本も差しなら」とは、落語に出てくる侍相手の江戸っ子のタンカだ。侍をやりこめるかと訊きは「でも最近ワナギは食ってない」とがっかりもさせる▲ただそのケンカの前「前理打」では町人が切られるから細やかではない。だが穏やかならぬのを承知で、郵便官庁の役人を侍にたとえ「二本差しが怖くておでんが食えるか」と経営者の意気を示してみせたのが「クロネコヤマトの宅急便」の生みの親・小倉昌男さんであった▲当初は懐の浅さも赤字累積を予想した宅急便だった。初日の取り扱い個数1個から始まったサービスである。だがやがて人々の暮らしに根づくことになり、今度は規制行政の理不慮との対決を強いられた。路線免許をめぐる郵便官庁への前代未聞の行政訴訟を起こすことになったのは有名な▲安い料金の新サービスを始めるとすれば、今度は運賃の認可の申請を受け付けられない。業をにやして勝手に新聞広告で宣伝し、次に役所の認可遅れのせいで安いサービスが遅れるとおむね広告を打った。まさに「てやんでえ、べらぼうめ」だ▲10年前にヤマト運輸の経営から一切身を引き、私財を投じて運輸省自立にむけた支援に取り組んだのも、江戸っ子のかさいを浴びるような転身だった。運輸省の低賃金の事実を知り、ならばと実際に月給10万円以上を払って練習のどれる職帯を作り出してみせた▲「父から江戸っ子の町人気風を受け継いだ」と語っていた小倉さんのことだ。今では米国で、ピンと二本筋の通ったみまごに江戸っ子人生をまっとうしたとこに満足しているだろう。

毎日新聞（余録） 7月2日

春秋

元ヤマト運輸社長の小倉昌男さんに、愚問と承知で尋ねたことがある。「職帯をもらわないのですか」と。案の定、「僕にくれるわけがないだろう」と二笑に付された。叙職は天皇の国事行為だが、実際の事務は官費が取り仕切り▼「宅急便」拡大の過程で、業界保護を優先する監督官庁の旧運輸省と衝突。「運輸省の役人は小学五年生以下だ」と、こき下ろした。「小学生も五年生ぐらいになると、うちの配達センターなどを見学してくれる。役人は来やしない」。現場では来やしない、お土産で規制する官僚に腹の虫が治まらなかつたのだ。▼勲章欲しさに官僚の顔色をうかがう経営人もいるが、もとと眼中にない。兩人と解雇は曲がらねば立たずという言葉がある。商業人は、道理の通らぬことを言う相手に、自分の気持ちを曲げてでも取り入るという意味である。それとは対極にいたからこそ、小倉さんは宅急便という巨大市場を生み出した。▼会社を引退した直後、幹部が気を利用して業績の説明にやっていた。ヤマトとはもう関係ないから来なくていいよ」と補らせたそうだが、人柄はいたって気さく。義太夫や小娘などの権古に精を出し、おさらびの会にいそいそと出かけた。その人生は自分を傷めることなく、あるがままに生きて八十年だった。

日本経済新聞（春秋） 7月2日

新聞各紙の追悼記事②

小倉昌男・ヤマト運輸元社長悼む

「理不度なことは許せぬ」。三十日死去した小倉昌男・ヤマト運輸元社長は、がんじがらめの規制と徹底的に戦い、宅配便を生活に欠かせないサービスとして定着させた。まさに官への反骨を貫いた人生だった。

小倉氏が「宅急便」を始めた昭和五十一年、当時、個人向けの小口貨物、輸送量は倍々増えなかった。小倉氏は「宅急便」を始めた昭和五十一年、当時、個人向けの小口貨物、輸送量は倍々増えなかった。小倉氏は「宅急便」を始めた昭和五十一年、当時、個人向けの小口貨物、輸送量は倍々増えなかった。

官への反骨を貫く

旧運輸省(現国土交通省)が路線免許を出し渋り、行政訴訟に訴え出した。宅配市場には他社も参入し、今や年間約三十億個の荷物が扱われるまで成長。日本郵政公社でも「ヤマト」が追随している。

「市場原理主義者」を自任しており、自由競争を心ざり認め、用が済むと二任して退任し、一切の役職を放棄していた。経営は矛盾の連続だ。サービスは長らくしたが、コストがかさむ。どうすべきか、はつきり決めるのが経営者の責任」とよく語っていた。各社も市場競争の中で自分だけの「サービス優先」で「消費者に選ばれたらいい」という信念に基づいて「自己責任」を本音で貫いた、まれな経営者だった。(編集委員 森一夫)

株式の使い方

「全部寄付したら、食えなくなるから」。6月30日に80歳で亡くなったヤマト運輸の小倉昌男さんから、照れ隠しとも聴こえる言葉を聞いたことがある。小倉さんが障害者の自立を支援する福祉財団を設立し、保有していた自社株式の3分の2を寄付したことを、初対面の私が話題にした10年前のことだった。

小倉さんは会社を全退職から退いた後、配当で生活するつもりだった。だが数年後、現りも財団に寄付し、結局は10億円以上になる株式をすっかり手放していた。周囲にいた娘さん一家が米国に移住したため、ひくくなりすぎた自宅を譲り渡す機会に恵まれた。家賃の差額で暮らせるようになったからだという。

若いころの闘病生活の経験から来たものか、クリスチャンの信仰のためだったのか。自ら作り出した「宅急便」で価値を高めた株式に、小倉さんは執着しなかった。ニッポン放送株をめぐる争いなど、今や株式の争奪戦が珍しくない時代だが、少し前には、株式を企業所有の道具に使わなかった経営者がいた。(松田真)

ヤマト運輸の元会長、小倉昌男氏が三十日午前六時(日本時間)、腎不全のためカリフォルニア州ロサンゼルス市の長女宅で死去した。八十歳だった。告別式はロサンゼルスで、葬儀は行方不明。

経済学部を卒業、四八年に父急便を考案して普及させ、路線トラック事業からの転換を果たした。九五年の会長退任後はヤマト福祉財団の理事として、個人宅に荷物を届ける宅取り組んだ。

大企業病退治のためには、役員をいっぺん辞めたい。経営者らしい現実的な面とがある。「たぐきん持ったまじし」のメテオ考法は徹底していた。貨物トラック業者にインテアを通じてどんな発言も、新聞に載せたくない。社長の発言がセンティブをはずすようにすれば、役人はびびりし「どうしたらいいか」ともっと張るようになるが、私は販売がわからぬと、「黙っていたら、こともなげに言っていた。ね」と助言を求められた。役員をいっぺん辞めたい。経営者らしい現実的な面とがある。「たぐきん持ったまじし」のメテオ考法は徹底していた。貨物トラック業者にインテアを通じてどんな発言も、新聞に載せたくない。社長の発言がセンティブをはずすようにすれば、役人はびびりし「どうしたらいいか」ともっと張るようになるが、私は販売がわからぬと、「黙っていたら、こともなげに言っていた。ね」と助言を求められた。

「自己責任」貫き通す

若ければ日本郵政公社が日本道路公団のトップに座った。一掃してはしかなかった。晩年も「行政運営権限」を握り、税金を食う物にする営業の悪弊を、具体例を挙げながら痛切に批判していた。

強では規制緩和や民営化を言い立てながら、監督官庁に頼りたがる人はいくらもいた。口だけではなく、宅配運輸を軌道に乗せるため、旧運輸省と対決したのは筋が通っていた。

既存業者の保護を考へる運輸省は、全国網を築こうとヤマト運輸が出す路線認可の申請をなかなか認めない。業を煮やして行政訴訟も辞さずというのだから大いに話題になった。当時、「勇気がありますね」と尋ね

「自己責任」貫き通す。経営者らしい現実的な面とがある。「たぐきん持ったまじし」のメテオ考法は徹底していた。貨物トラック業者にインテアを通じてどんな発言も、新聞に載せたくない。社長の発言がセンティブをはずすようにすれば、役人はびびりし「どうしたらいいか」ともっと張るようになるが、私は販売がわからぬと、「黙っていたら、こともなげに言っていた。ね」と助言を求められた。

ヤマト運輸・小倉昌男元会長死去



小倉昌男氏の語録

- 「安全第一、営業第二」
1950年代半ば、トラック事故を減らすために、何を最優先するのか明示して
- 「サービスが先、利益は後」
1976年1月、宅急便開始にあたりサービスを最優先する姿勢を強調して
- 「月給1万円以下で働かせていたら、障害者を飯の種にしていると言われてもしょうがない」
1993年9月に私財を投じて設立したヤマト福祉財団が、障害者雇用施設の給与が安すぎると主張して
- 「最高裁まで徹底して争う」
1994年7月、クレジットカードは信書に当たるとして配送停止を迫る郵政省一現総務省一に反発して
- 「(ヤマトの社長が郵便法違反の)懲役3年を受けると言えばいい、そうすれば世論を喚起できる」
2002年5月、日本経済新聞のインタビューで、政府が郵便市場の条件付き開放を決めたことに対し、市場の完全開放を求める考えを示して

天声人語

「ある時、息子の洋服のお古を、千葉に住んでいた弟の息子に送ってあげようと思った。ところが、運輸業の社長である自分に送る手段がない。元ヤマト運輸社長、小倉昌男さんは、「宅急便」を

筆洗

親ネコが子ネコを遊ぶクロネコ・マークのヤマト運輸元社長で、「宅急便」の創始者として知られる小倉昌男さんは「ミスター規制緩和」の異名を取る戦う経営者だった。配



1976年、周囲の反対を押し切って、宅急便事業をスタートさせた

ゼロにしたい」と真剣に語った。

清廉な人だった。保有するヤマト運輸の株式、時価46億円(当時)は、すべて福祉財団に寄付。自らは無報酬を買った。

障害者の支援事業を始めて、月給が1万円に満たない実態を知ると、持ち前の反骨精神に火がついた。「月給10万円を目指そう」と関係者を鼓舞したが、本当に重視したのは金額そのもの

ではなく、障害者を保護の対象とせず、働くことで社会的存在意義を感じてもらおうことだった。「普通のサラリーマンも定年を迎えたら寂しさを感じると思う。自分が社会の役に立っているという思いは、誰にだって大切だ」。

ほかでは受け入れない重度の障害者が入所する施設が経営難に陥っている、と聞くと放っておかず、ポケットマネーをはたいてでも支援した。一方で、障害者の雇用促進を目標に掲げながら、労働事務次官をトップに迎えて高給を支払っている公益法人に対しては「目的と手段を取り違えている」と、痛烈に批判した。

稀有な経営者であった小倉氏に、助言を求めてやってくる起業家も多かった。その経営哲学をもっと多くの人に広めるべきではないか。そう考えて、1996年、本の執筆を持ちかけると、あっさり断られた。

「死んだ後に、自分が偉そうに書いた文章が残るなんて嫌だよ」

だが、こちらも引き下がれない。財

小倉昌男氏の歩み

1924年	東京都で誕生
42	東京大学経済学部入学
44	生徒動員
47	大学卒業
48	大和運輸入社。結核を患い、4年余り闘病生活を送る
54	静岡運輸に出向
56	玲子夫人と結婚
71	ヤマト運輸社長就任
74	道路審議会の委員に就任
76	宅急便開始(初年度取扱個数170万個)
83	スキー宅急便、夏年ゴルフ宅急便を開始
86	運輸省を相手取り、行政訴訟を起こす
87	会長に就任、クール宅急便開始
91	相談役に
93	会長に復帰。保有していた自社株式を寄付してヤマト福祉財団を設立
94	郵政省との間に信書配達論争
95	会長を退任、障害者の自立支援活動に注力
96	スカイマークエアラインズの株主に
2003	長野県の行政改革に尽力
05	宅急便取扱個数10億6300万個(3月期)。6月30日、腎不全により死去

界人の文集に掲載された小倉氏の文章はプロ並みだった。結核との闘い、失恋、そして信仰に出合い「自分は生かされている」と気づくまでの、若い日を綴った随筆は胸を打った。

「自分に誠実に、人に誠実に」

「社員や障害者施設の職員のためにも、経営書を残してください」「書かないと言ったら書かないよ。その話は終わりだ」。1年以上もやり取りが続いた頃、小倉氏は大腿骨を手術し、長期入院した。冬だった。何度目かの見舞いで春の花の写真集を持参すると、ページをめくりながら小倉氏がつぶやいた。「花は毎年、咲き続けるからいいね。でも人は死んだら終わりだからね」。ややあって、言った。「本の冒頭には面白いエピソードがあるな」。経営者が本を書くと、会社が傾くという



84年、路線免許の交付の是非を審議する、運輸審議会の公聴会で陳述した

ジンスも気になっていたと、後で聞いた。

だが、引き受けてからが大変な作業だったに違いない。小倉氏は一字一句、自分でワープロを打って原稿を書いたからだ。完成までに1年あまりかかったが、著書「小倉昌男 経営学」は、ビジネス書としては異例のベストセラーとなった。

小倉氏は、権力をかさに着る官僚だけでなく、現状に甘んじ、企業組織にぶら下がろうとするサラリーマンについても「情けない」と嘆いた。

しかし信念を持ってチャレンジする人に会うことを心から喜んだ。起業家、養護学校の教諭、

炭焼きの名人、芸術家まで、あらゆる人物が小倉氏を訪ね、活動のヒントを得た。東京・銀座の外れにある小さなビルの一室。元・大企業の経営者の事務所としては質素すぎるほどの部屋には、来客

が絶えなかった。

経営にとどまらず、道路公団民営化などの特殊法人改革、郵政民営化、日本の将来に関わる大きなテーマが持ち上がるたびに、マスコミも小倉氏の元にはせ参じた。小倉氏の発言に多くの人が注目したのは、単なる政府・官僚批判ではなく、常に、論理を積み重ね、的を射た意見を述べたからだろう。その後を継げる論客が、果たして今の経済界にどれほどいるか。

「人間として悔いのない人生を送るために、できることは毎日毎日誠実に生きることだと思う。自分に誠実に、人に誠実に」。その言葉通りに生きた、80年だった。(編集委員 村上 富美)

時流超流

追悼——小倉 昌男氏 [ヤマト運輸元会長] 需要を創り出した経営者

6月30日、宅急便の生みの親、ヤマト運輸元会長の小倉昌男氏は、80年の生涯を閉じた。10年前に会長職を退いてからは、ヤマト福祉財団の理事長として障害者の自立を支援。障害者が働く作業所の施設長らに「需要とは、あるものではなく創り出すもの」と経営ノウハウを説いた。昨年5月に病で入院生活を余儀なくされるまで、杖を突き、耳に補聴器を当てながらも、全国を回り、活動を続けた。

常識に挑戦し、大ヒットを生む

約30年前、小倉氏は「遠くに住む家族や友人に荷物を届けたい」という消費者ニーズを宅急便という形で商品化した。周囲の運送業者たちは「個人向けの荷物は手間ばかりかかって儲からない」と見向きもしない時代だった。

だが小倉氏は常識にとらわれずに論理を積み重ねた。「主婦は値切らない。路線ネットワークの上を行き交う荷物の数が増えれば、必ず儲かる」。社内の役員も全員反対したが、労働組合の支持を得て、事業化に踏み切った。「サービスが先、利益は後」と方針を明確化。地域ごとの均一料金や翌日配達を導入し、5年で黒字化させた。

NTTの電話網、吉野家の単品メニューなど異業種からも柔軟にヒントを得た。スキー宅急便、クール宅急便、さらに通信販売の代金回収代行サービスなど、利用者の立場に立つ発想で商品を拡充し、宅急便の取り扱いを倍増させた。根底にあったのは、「路線ト

ラックは公益事業、市民の役に立ちたい」という経営者のロマンだった。

昨年、国内の個人のインターネット通信販売の市場規模は5兆6000億円に達した。その急成長を支えたのは、宅配便事業にはかならない。小倉氏が始めた事業は、流通業界におけるコンビニエンスストア同様、消費生活のインフラと言え存在に成長した。

一方で、小倉氏の足跡を振り返る時、官との関いを忘れることはできない。宅急便事業に立ち上がった最大の障害、それは路線免許制度という官製の壁だった。

ヤマト運輸はもともと、関東を拠点とする路線トラック業者だった。そこで全国に宅急便の配送網を築こうと、路線免許を申請したが、3年も4年も放っておかれた。既存業者を守るために、新規の申請者が諦めるのを待つようなやり方がまかり通っていたのだ。

政治家に頼んで、免許が下りよう取り計らってもらう道もあった。だが小倉氏は、橋本龍太郎運輸大臣(当時)を相手取って行政訴訟を起こし、正面から官と闘う道を選んだ。

故・小淵恵三首相は小倉

人を同書で判断せず、誠実に扱った小倉氏は、多くの人から慕われた。官僚の中にも小倉ファンは多い

氏について「父親同士の代からの知り合いだが、政治家として私に頼み事をしてきたことは、一度としてなかった」と述懐している。

「霞が関の役人をゼロに」

「官僚には、金儲けを目的にしている民間企業は官庁より下という官尊民卑の考えが染みついている。それが許せない」。小倉氏は常々そう語った。後に路線免許は許可制になったが、「申請者が増えたことで役人が増えた。焼け太りだ」と憤り、「霞が関の役人を



(写真：中村 成一)

小倉昌男理事長が勇退 新理事長に山崎 篤 (ヤマト運輸株式会社) 代表取締役社長)が就任

6月6日開催された当財団の平成17年度、第1回理事会、評議員会の役員改選で、小倉昌男理事長が勇退し、代わって新理事長に山崎 篤(ヤマト運輸株式会社代表取締役社長)が選出され就任しました。



山崎 篤 新理事長

「ヤマト福祉財団賞」を
「ヤマト福祉財団 小倉昌男賞」
に名称変更します。

今年度より、「ヤマト福祉財団賞」を財団創設者の名に因み「ヤマト福祉財団 小倉昌男賞」と名称変更して実施します。

平成17年度 助成先決定一覧

◆施設の改修・備品購入

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
北海道	社会福祉法人妻の子会ジャンプレツ	軽ワゴン車	1,000,000円
	スワンカフェ&ベーカリー札幌時計台店	台所増改築	1,000,000円
	特定非営利活動法人精神障害者を支援する会	厨房機器	700,000円
	社会福祉法人滝川ほほえみ会	温風暖房機	600,000円
青森	幕別町心身障害者小規模通所授産施設「ひまわりの家」	ノートパソコン	180,000円
	地域共同作業所ふれあいデジタル工房	作業用アプレハブ	1,000,000円
岩手	特定非営利活動法人さんりくこすもす	リサイクルショップ増改築	900,000円
	浄法寺町精神障害者小規模作業所「ほほえみ工房」	パン製造用シーター	710,000円
宮城	気仙沼市手をつなぐ太陽の会あさひ作業所	作業ハウス建設工事	700,000円
	NPO法人輝くなかまチャレンジド	作業スペース及びトイレの改善	1,000,000円
秋田	特定非営利活動法人障がい者自立生活センター「ほっと大仙」	喫茶店と駄菓子屋用備品一式	960,000円
	山形	心身障害者通所小規模作業所・工房せい	調理室改修工事
福島	心身障がい者小規模作業所東根さくらんぼの家	エアコン	500,000円
	知的障がい者小規模作業所いわき夏井作業所	車両	1,000,000円
茨城	ペンギン村第二共同作業所	軽トラック	1,000,000円
	特定非営利活動法人自然クラブ	ひまわり油採集機械一式	950,000円
栃木	特定非営利活動法人那須フロンティア	厨房機器一式	1,000,000円
	群馬	利根西部福祉作業所(月夜野町社会福祉協議会)	業務用オープン及び、パン製造機
埼玉	障がい者の自立を考える「あしたの会」	炊飯器の購入	510,000円
	毛配当くらぐら	社会福祉法人皆の郷第2デイケアいもの子	作業室内装の改修及びエアコン設置
千葉	チュウリップ	生花小売販売事業	600,000円
	ふれあいハウス	ミニモルター・コーヒー用発電機	1,000,000円
東京	とまりぎ第五作業所障害者の働く場かりん	パイプハウス資材の購入	670,000円
	社会福祉法人かがやき会	ガスオープン	1,000,000円
神奈川	社会福祉法人みんなの会小規模通所授産施設第一みんなの家	アルミ缶小型電動圧縮機	210,000円
	社会福祉法人済美会	紙折機の購入	660,000円
新潟	社会福祉法人荒川のぞみの会作業所ボンエル	冷暖房機購入、ミシンの購入	690,000円
	社会福祉法人ゆめグループ福祉会ゆめ工房	半自動梱包機	450,000円
富山	ちよんこめ作業所	軽ワゴン車	1,000,000円
	ジョイカンパニーJ3	急速冷凍庫	1,000,000円
富山	心身障害者通所作業所愛らんど畑野	販売用の車両	1,000,000円
	地域生活応援ハウス工房あおの丘	業務用菓子製造オープン	300,000円
石川	社会福祉法人ひるびろ福祉会ひるびろ作業所	ウエス加工自動式マイコンレイカッター	500,000円
	福井	株式会社ハートランドスワンベーカリー	ソフトクリームディスペンサー・POSレジスタ
山梨	ハートランド福井店	トラック購入	1,000,000円
	びーぶるファン	ディサービス事業用備品	500,000円
長野	特定非営利活動法人昭和・田宮・玉穂地域生活支援システム研究会バンジー		
	どんぐり福祉会どんぐり作業所	耕うん機	700,000円
岐阜	特定非営利活動法人さんしょうの会	作業所の増築	1,000,000円
	静岡	静岡市清水手をつなぐ育成会 授産所エンゼル	ガスオープン
愛知	特定非営利活動法人どんぐりの会	ドラコンデシヨナー	1,000,000円
	福祉夢工房はーもい	ドラコンデシヨナー	1,000,000円
三重	社会福祉法人喜楽里	豆腐自動包装機の購入	1,000,000円
	いへ共働作業所	作業所増設工事	1,000,000円
京都	特定非営利活動法人ささまYOUYOU館	厨房設備機器	630,000円
	特定非営利活動法人ユースサポートネットとも	冷凍冷蔵	500,000円
兵庫	社会福祉法人ひびき福祉会(ハイワークひびき)	外販用軽トラック	1,000,000円
	ゆめ本社	エアコン	500,000円
奈良	ボレボレハウス	自動ドアの設置	600,000円
	社会福祉法人メイケのタウン身体障害者小規模通所授産施設メイケのタウン	トイレ設置	1,000,000円
和歌山	かめのこ会	電動工具購入及び環境整備事業	600,000円
	社会福祉法人一妻会知的障害者通所授産施設はぐろ共同作業所分場	煎餅焼機の購入	490,000円
鳥取	社会福祉法人トマトの会	配達用自動車	1,000,000円
	鳥根町障害者共同作業所さくらんぼの家	軽乗用車	1,000,000円

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
岡山	浜っ子作業所日生町手をつなぐ親の会	シャワーユニット一式	1,000,000円
広島	作業所貴船ハウス	車両	1,000,000円
山口	柳井地区精神保健家族会つばさ「あけぼの工房」作業所	作業所の増改築	770,000円
徳島	特定非営利活動法人太陽と緑の会	印刷機	700,000円
愛媛	NPO法人ほっとなつとすけっと工房	軽自動車	1,000,000円
高知	共同作業所森のいえ	コピー機	490,000円
福岡	有限会社田主丸アグリビジネス精神障害者社会復帰事業所	パン焼きオープン、発酵機、ミキサー(生地こね機)、フライヤー、魚焼機	500,000円
佐賀	あゆみの会共同作業所	車両	800,000円
長崎	みやき町ひまわり作業所	パソコン一式	200,000円
熊本	野草共同作業所	草刈機	260,000円
大分	障害者自立支援センターにしほら「たんぼハウス」	ガスオープン・作業台・イス・カーペット	400,000円
宮崎	ばらの会作業所シヤローム	味噌加工機器購入	1,000,000円
宮崎	福祉工房ゆめたまご	車両	1,000,000円

◆各種会議・講演会・研修事業

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
神奈川	人工内耳友の会[ACITA]	人工内耳に関するシンポジウム	300,000円
愛知	特定非営利活動法人地域福祉サポートちた	障害当事者のためのホームヘルパー3級養成講座	700,000円

◆各種出版・啓発活動

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
青森	青森県社会福祉士会権利擁護センター	知的障害者のための成年後見制度申し立てマニュアルの出版(青森県版)	650,000円
東京	日本障害者協議会	「四半世紀の障害者運動のあゆみ」出版事業	1,000,000円
鹿児島	特定非営利活動法人鹿児島市精神保健福祉推進の会・かれん鹿児島	「精神の障害をもつ当事者の思い・家族の思い」冊子作成と配布	350,000円

◆各種調査・研究事業

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
東京	ワーカビリティ・インターナショナル/アジア	東南アジア地域の障害者作業所への協力に関する調査研究	1,000,000円
東京	ひので福祉ネットワーク	新潟県中越地震における災害弱者避難の現地調査	150,000円
愛知	特定非営利活動法人チャレンジヘルパーステーション	美浜町の障害者の生活実態と支援費の利用に関する調査のための諸費用	450,000円
滋賀	滋賀県障害者親と父母の会連合会	新たな障害者保健福祉施策体系の構築	400,000円

◆文化事業・スポーツ活動

地域	障害者施設及び団体名	申請事業と購入物件	決定額
三重	スペシャルオリンピックス日本・三重	サッカー・陸上・水泳のスポーツトレーニングに係る活動費	300,000円
京都	特定非営利活動法人京都府精神保健職観会	第10回精神障害者スポーツ大会こころのひびきJOY+スポーツ	500,000円
大阪	NPO法人地域生活支援センター ナイスネット	ツインバスケットボール WINTER LEAGUE 2006大会	600,000円
兵庫	兵庫県車椅子ツインバスケットボール連盟	のじく杯車椅子バスケットボール大会	600,000円
鳥取	精神障害者中部家族会しほり作業所	鳥取県精神障害者共同作業所と地域住民のラージボール卓球大会	200,000円
福岡	北九州ファッション協会	障害者のユニバーサルファッション事業	800,000円

◆平成17年度 奨学金供与と先一覧

本年度は34名の方に月額5万円を供与いたします(返済不要)

四国学院大学/日本社会事業大学/聖隷クリストファー大学/東洋大学/神奈川大学/四国学院大学/東京大学/明治大学/神戸市外国語大学/四国学院大学/宮崎公立大学/桜美林大学/東京国際大学/同志社大学/熊本県立大学/神戸学院大学/四国学院大学/金城学院大学/創価大学/法政大学/東京富士大学/桃山学院大学/桜美林大学/工学院大学/桜美林大学/沖縄大学/大東文化大学/首都大学/大阪体育大学/沖縄大学/放送大学/四国学院大学/京都文教大学/東洋大学

	参入	手続中	待機・辞退	計		参入	手続中	待機・辞退	計
全社計	59	18	35	112					
札幌主管	0	1	0	1	北信越支社計	2	1	0	3
函館主管	0	0	1	1	新静岡主管	0	0	1	1
千歳主管	1	0	0	1	浜松主管	0	0	0	0
道北主管	2	0	1	3	三河主管	0	2	0	2
道東主管	1	0	0	1	名古屋主管	1	0	0	1
北海道支社計	4	1	2	7	三重主管	0	0	0	0
青森主管	3	0	0	3	愛知主管	0	0	1	1
秋田主管	0	1	0	1	岐阜主管	0	0	1	1
岩手主管	1	0	0	1	中部支社計	1	2	3	6
宮城主管	1	0	0	1	大阪主管	3	2	6	11
山形主管	0	0	0	0	西大阪主管	2	0	1	3
郡山主管	4	0	3	7	京都主管	1	1	1	3
東北支社計	9	1	3	13	滋賀主管	0	0	2	2
北東京主管	2	0	3	5	奈良主管	3	0	0	3
東京主管	1	0	0	1	和歌山主管	1	1	0	2
南東京主管	1	0	0	1	兵庫主管	0	0	2	2
西東京主管	2	0	2	4	姫路主管	1	0	0	1
新東京主管	0	1	1	2	北大阪主管	3	0	1	4
東東京主管	0	0	0	0	関西支社計	14	4	13	31
埼玉主管	4	0	1	5	岡山主管	1	0	0	1
東京支社計	10	1	7	18	三次主管	1	1	0	2
茨城主管	0	2	0	2	広島主管	1	1	0	2
栃木主管	0	0	0	0	山口主管	0	0	0	0
群馬主管	2	0	0	2	津山主管	1	0	0	1
埼玉主管	2	0	0	2	中国支社計	4	2	0	6
千葉主管	0	1	0	1	香川主管	0	0	0	0
横浜主管	1	0	0	1	徳島主管	0	0	0	0
厚木主管	0	1	0	1	高知主管	1	0	0	1
川崎主管	0	0	1	1	愛媛主管	2	0	0	2
西埼玉主管	0	1	2	3	四国支社計	3	0	0	3
船橋主管	0	0	0	0	福岡主管	2	0	2	4
山梨主管	1	0	0	1	北九州主管	1	0	0	1
関東支社計	6	5	3	14	佐賀主管	0	0	0	0
新潟主管	0	0	0	0	長崎主管	1	0	0	1
長岡主管	0	0	0	0	熊本主管	1	0	0	1
長野主管	2	0	0	2	大分主管	0	1	1	2
松本主管	0	0	0	0	宮崎主管	0	0	1	1
富山主管	0	0	0	0	鹿児島主管	0	0	0	0
金沢主管	0	1	0	1	九州支社計	5	1	4	10
福井主管	0	0	0	0	沖縄ヤマト計	1	0	0	1

〔参入待機及び辞退の内訳〕

待機	25
辞退	10
計	35

※主管別参入待機状況

全社計	25		
道北主管	1	大阪主管	6
北海道支社計	1	西大阪主管	1
郡山主管	3	京都主管	1
東北支社計	3	滋賀主管	2
西東京主管	2	兵庫主管	2
新東京主管	1	北大阪主管	1
東京支社計	3	関西支社計	13
新静岡主管	1	福岡主管	2
中部支社計	1	大分主管	1
		宮崎主管	1
		九州支社計	4

〔障がい区分別 エントリー状況〕

精神	40
知的	28
身体	6
混合	35
中途障害	2
その他(ひきこもり)	1
計	112

〔障がい区分別 配達従業者〕

障がい区分	配達従業者数
精神	133
知的	70
身体	12
混合	67
中途障がい	8
その他(ひきこもり)	4
合計	294

メール便事業取組み経過

- 平成16年10月、※民間支援4団体加盟施設・作業所(3,520ヶ所)に向けたメール便事業参入のための広報リーフレットを作成・配布。
- 平成17年3月、社外・社内からの問い合わせ増加にともない、事業案内の一元化および広く情報を公開するため、ヤマト福祉財団ホームページにメール便事業案内を掲載。
- 平成17年7月、「参入配達事例集」を発刊。すでに参入して配達に取り組んでいる全国7ヶ所の施設・作業所の配達状況を紹介。

※きょうさん・(社)ゼンコロ・日本セルフセンター・全国社会就労センター協議会



(社福)武蔵野千川福祉会「チャレンジャー」
鈴木真理さん

昨年12月にNHK「おはよう日本」でも報道された「障がい者によるメール便配達」は、障がい者が地域で共生するための新しい就労の場として、各方面から注目されています。6月30日現在、全国35都道府県・112ヶ所の施設・作業所からエントリーを受け付け、その約22%にあたる25ヶ所の施設・作業所は、自配化施策および既存メイトとの配達エリアバッティング等により、参入待ちの状況です。

全国59ヶ所の施設・作業所が参入して、294名の障がい者の皆さんが働いています。

全国にメール便配達を広げよう



仕分け作業

大盛況
だった

「ミーカフェ in スワンカフェ」

「働いている人たちが素敵。クロネコバンザイ!!」
過去最高の売上げと、心温まる声援をいただきました。

ミーカフェ3,398人、
ミーちゃんベーカリー5,374人。
たくさんの方に
ご来店いただきました。

写真家 平間至さんのご協力によりスワンカ
フェ銀座、スワンベーカリー銀座で5月16日(月)
〜5月28日(土)にわたって開催された「ミーカ
フェ」。カフェでは過去最高の売上げ(25万円以
上)を4回更新し、対前年比174.1%の数字
を記録しました。ベーカリーでは初日に開店以
来過去最高の売上げを記録、終了時には月間

売上げが対前年比132.9%まで伸びました。
期間中に用意した特別メニューは「ミーちゃん
のくりーミーサンド」373食、「ムース」170
食、「フィナンシェ」600個、「くりーミーチー
ズパン」1330個、「くりーミーブリオッシュ」
996個と驚異的な販売数を記録しました。

マスクミはもちろん、
ブログでもたいへんな話題に。
新しいスワンの賛同者、
スワンファンを獲得できました。

5月23日(月)に放送されたフジテレビ「めざ
ましテレビ」では平間さん、ミーちゃんも出演
して、「ミーカフェ」のPRに役を買っていただき
ました。また「TOKYO Walker」など多くの雑
誌でも取り上げていただきました。

たいへんな盛り上がりを見せたのが、「ここ1
年余りの間に急速に普及したインターネットの
ブログです。平間至さんのホームページ、スワン
ベーカリーのホームページで、ミーカフェ開催を
告知したところ、オープン前からたくさんの方
クセスがあり、いろいろなブログで紹介されま
した。オープンしてからは、ご来店いただいた方々



「クロワッサン」「TOKYO Walker」「東京一週間」など
各誌で話題に

が写真入りでミーカフェの感想をブログ上に報
告。また他の方が書き込むという連鎖反応で、
驚くほどの盛り上がりぶりでした。そういった
皆さんの声を抜粋でご紹介します。

「働いている人たちが素敵だった。楽しみなが
ら、一生懸命働いていました。カフェの成り立ち
をホームページで読み、実際に訪れて、その努力
がしっかり実を結んでいることがわかりました。
こんなに気持ちよく、楽しく食事ができたのは
久しぶりかも。クロネコバンザイ!!」心にしみる
お言葉、本当にありがとうございます。

これだけ多くの方に、「ご来店いただきたい、オー
ダーの遅れ、不手際等もあったかと思いますが、



平間至さんとスワンベーカリー銀座店スタッフ



期間中一件のクレームもありませんでした。ミーカフェという独特の心なごむ空間、障がい者たちの一生懸命働く姿、笑顔、何よりもお客様のご理解の賜物と考えています。またシフトや営業日の変更があったにもかかわらず、障がい者全員が無遅刻無欠勤でがんばりぬいたことも、ご報告させていただきます。



ミーカフェ打ち上げの夜、平間至さんとスワンカフェスタッフ

最後に写真家平間至さんのメッセージをご紹介します。

(ホームページ <http://www.itarujet.com/>より一部抜粋)

今回は『ミーカフェ』のなかでも最高の『ミーカフェ』が出来ました。

障害者の自立と支援を目的としているクロネコヤマトのヤマト福祉財団から話があって、それならぜひぜひという感じで全てがトントン拍子に話が決まっていきました。

いつも気配りを見せてくれたホールスタッフの人たち、毎日徹夜でほとんど家に帰れなかったキッチンスタッフ、ミーちゃん焼印を何度も押ししてくれたベーカリースタッフ、『ミーカフェ』のデザイン要素を全てデザインしてくれた長尾さん、関わってくれたみんなが本当によく頑張ってくれました。

たくさんの人に来ていただいて、本当にありがとうございます。

またいつかスワンカフェでぜひ『ミーカフェ』が出来たら、と思っています。

ミーちゃんに『ミーカフェ』は大盛況だったって言ったら、「ニヤ」って言うてました。

Presents

ミーカフェ・オリジナルグッズをプレゼント!

ミーカフェ開催を記念して、先着50名様にミーカフェ・オリジナルグッズを差しあげます。

ご応募方法：メール、はがき、faxのいずれかで、お名前、ご住所、お勤め先、ヤマト福祉財団の活動に関する感想を明記のうえ、下記までご応募ください。

応募締切：8月20日



財団法人 ヤマト福祉財団
〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-15 Tel.03-3248-0691 Fax.03-3542-5165
<http://www.yamatofukushizaidan.or.jp> Eメール.y.zaidan@yamatoofukushizaidan.or.jp

「日本財団春の 交流会2005」に 赤坂店が出店。

4月11日(月)、日本財団主催の「日本財団春の交流会2005」がホテル海洋で開催されました。昨年に続いて今年もスワンカフェ&ベーカリー赤坂店が出店、大好評でした。



スワン
NEWS
ア・ラ・カ・ルト

open! スワンベーカリー赤羽店が オープンしました。



スワンベーカリー十条店の支店として、スワンベーカリー赤羽店が5月22日(日)にオープンしました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

スワンベーカリー赤羽店

東京都北区赤羽西5-12-4-108
Tel.03-3907-3334
営業時間：10:00～18:30(日・祝日休み)
最寄り駅：赤羽駅よりバスで赤羽郷下車(バス停前)

スワンベーカリーが新しく 大阪府大東市にオープンします。

スワンカフェ&ベーカリー大東店、9月上旬オープン予定。
大阪府大東市末広町15-6 JR住道駅より徒歩3分
新しいスワンベーカリーを、どうぞ応援よろしくをお願いします。



スワンベーカリー銀座店・ スワンカフェ銀座店に 佐藤光浩 新店長が就任。

藤野広一店長は赤坂店に転勤し、佐藤光浩店長が、新しく就任しました。よろしくをお願いします。

台湾の政・経済界の関係者が、 スワンカフェを視察。

4月13日(日)、好隣居基金会の頼東明会長をはじめ、統一超商(台湾セブンイレブン)、政府、マスコミ、大学関係の方々など総勢12名の皆さんが、銀座店、スワンカフェを視察に訪れました。イキイキと働いている障がい者の姿を見て、感動された様子で、台湾での今後の

福祉活動推進にぜひ役立てたいとお話していました。



Power up seminar

2005年パワーアップセミナーがスタート!

パワー
アップ
セミナー



「新たな政策潮流と障害のある人びととの地域生活」について、わかりやすく解説された、立岡 暁きようさん理事長



講演を熱心に聴き、北海道エリアのセミナー参加者の皆さん

「月給1万円からの脱却」をテーマに、共同作業所の経営力アップ、商品力アップを通して、障がい者の収入アップをめざす第10回パワーアップセミナーが、6月23日北海道エリアからスタートしました。全国9ヶ所で開催、270名の参加者を予定しています。今年は今国会で審議中の障害者自立支援法案を、各会場に厚生労働省の担当行政官を迎えて直接解説をお願いしています。また、講義内容をさらにステップアップして、商品開発・障がい者の職域開発・経営改善など、より実践的な要素を取り入れています。

職場
めぐり

姫路主管支店

がんばって
ますか!

障がいの
者めぐり
職場



長尾由起夫さん



宮本雅司さん

スキャナー作業も一人前です。
仕分作業もベテランです。

浜田みほさん



「長尾由起夫さんは作業課で仕分けを担当しています。」荷物の仕分け、流しをやっていきます。仕事にはすっかり慣れました。アルバイトの人が新しく入ってくれば、仕事も教えています。「同じく作業課で仕分けを担当している宮本雅司さん。」以前も別の会社で働いていましたが、ヤマト運輸に来て初めて自分の健康保険証を持つことができました。うれしくて、しばらく持ち歩いていました。「皆さん、これからもがんばってください。」

「入社以来トラブルは二度も無く、支店には欠かせない戦力になっていく浜田さんにお話を伺いました。」「仕事は順序よく順番にやっています。一人でも大丈夫です。みんなの役に立ち、楽しいです。給料がでたら洗顔フォームとかファンデーションを買っています。もちろん将来のために貯金もしていますよ。中学生になる弟にも、小遣いをあげています。今年1月に成人式を迎えました。これからも、ずっとヤマト運輸で仕事をしたいと思っています。」

ヤマト運輸にスキャナー制度が導入された姫路主管支店に初めて知的障がい者が入社しました。第一期生の浜田みほさんは、このスキャナー業務にチャレンジ。夜間3人の社員が担当して処理しきれなかった作業を、翌日一人で処理しています。一日平均60,000件の伝票のうち10,000件をこなしています。売上票にはカーボンがついているので、定期的にメンテナンスも必要になります。たいへん集中力を要求

ヤマト運輸労働組合「2005年中央研修会」で
沖縄「ふれあいセンター」永山盛秀さんが、講演。
「全国の障がい者団体が、ヤマト運輸、労働組合に期待！」



永山盛秀さん

「昨年の第4回ヤマト福祉財団賞を受賞された、沖縄「ふれあいセンター」永山盛秀さんが、5月26・27日新潟県で開催されたヤマト運輸労働組合「2005年中央研修会」で講演されました。」

共同作業所にとって、メール便配達がいかに魅力的な仕事であるか、6つのポイントをあげて力説していました。①仕事が多岐にわたる。仕分け、地図組み、配達と業務を分けて各自の得意分野の仕事に従事できる。②時間配分が自分たちで決めることができる。夕方までに配達すればいいので、過度なプレッシャーを与えず、焦らず、納得しながら仕事ができる。③社会との関わり、社会参加。配達するときに「ありがとう」「ご苦労さん」とお客さまから声をかけていただくことを通じて、地域社会との接点ができる。社会参加を実感でき、本人たちの元気回復につながる。④ユニフォームの着用と仲間意識。配達途中でトラックとすれ違った時、セールスドライバーの方とお互いに手を振る。この何気ない仕草が、大変な励みになるとのこと。またユニフォームを着用することによって、クロネコヤマトの仕事をしているのだと、自信と誇りが持てるようになる。⑤なんと言っても配達そのものが楽しい仕事である。多くの人に会え、道を覚え、日々新たな発見がある。⑥がんばって働いた分だけ高収入が期待できる、やりがいのある仕事であること。

最後に、全国の共同作業所が、障がい者福祉に取り組んでいるヤマト運輸、ヤマト運輸労働組合の活動に注目、大きな期待を集めているとお話されていました。

2年前に沖縄から始まったメール便配達が、いま全国的な広がりをみせていますが、まだ受け入れや支援が十分とは言えません。障がいの働く場として、大きく育てていき、共同作業所の皆さんの期待にこたえていきたいものです。



社会福祉法人 繁特会 **はんとく苑**
知的障がい者 50名在籍 宮城県登米市米山町



スワン
ネット



自然を相手に一生懸命、椎茸栽培。
今回は、スワンネットの干し椎茸製造元を訪問しました。

東京から東北新幹線で2時間半、古川駅からは車で約40分。田植えが終わったばかりの田園を抜け、森に囲まれた丘陵地帯の「はんとく苑」を訪問しました。三島照義苑長に、お話をうかがいました。

——スワンネットと取引するようになった、きっかけは

ヤマト福祉財団の小倉昌男前理事長が1昨年、東京都で講演されて、都の福祉局長との歓談の折、当施設の椎茸の話が出まして、だったらスワンネットさんで扱えるのではという事になって、ご紹介いただきました。東京都の委託を受けた施設です。そういうお話になったんだろうと思います。販売のノウハウが無くて、今までは農協さんに一括して買ってもらっているだけでした。

——椎茸の栽培についてお聞かせください

7万本の原木に栽培しています。室内ではなく外で栽培していますので、自然と相談しながら、やっています。雨が少なくなるとは水をやりません。それもスプリングラーの

ような散水施設はありませんので、すべて手作業です。逆に雨が多すぎるときにはシートをかぶせたり。雨がすくなく、ひからびて終わってしまふし、雨が多すぎると雨子といって、黒い椎茸ができて品質が落ちてしまいます。適度の湿度を保つことが大切なんです。ハウス栽培だと、その辺は楽だし、大量に頻繁に出荷できるんですが、身が薄

くておいしくな
い。自然を相手
に戸外で栽培
すると、肉厚で、
おいしい椎茸が
できるんです。
軽度の障がい者
も重度の人も、
みんなで仕事を
分担して、一生
懸命がんばって
います。



——売れ行きは、いかがですか

スワンネットさんとは、昨年の5月から取引をさせていただきまして、昨年は200パック(50g入り)くらいでした。今年に入って急速に増えて、600パック(6月現在)の注文をいただきました。障がい者のために全国販売ネットワークを構築しているスワンネットさんの熱意と、自然を相手に手間ひまかけて作った「はんとく苑」の椎茸の味、香りが徐々にご理解いただけると推察しています。これからも、自然と相談しながら、おいしい椎茸を作り続けてください。

詳しいお問い合わせは 〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-15 ヤマト運輸別館8F 株式会社スワンネット 営業部長 門脇 悠
Tel. 03-5148-1066 Fax. 03-5148-1067 e-mail : kadowaki@swanet.jp

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸 (株) 内)

支部	事務長	連絡先	支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040	関西支部	富川宣臣	TEL.06-6682-7127
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065	中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
東京支部	窪寺敏幸	TEL.03-5564-3705	四国支部	柳島憲行	TEL.0877-46-7875
関東支部	安田 稔	TEL.03-3471-9016	九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
北信越支部	酒井 貢	TEL.025-231-9512	沖縄支部	六笠保裕	TEL.098-859-2811
中部支部	内田辰吾	TEL.0561-61-5111			



北信越支部に
酒井 貢
新事務長が就任

相場 孝志事務長お疲れさまでした。新しく酒井 貢事務長が就任しました。よろしくお祈りします。